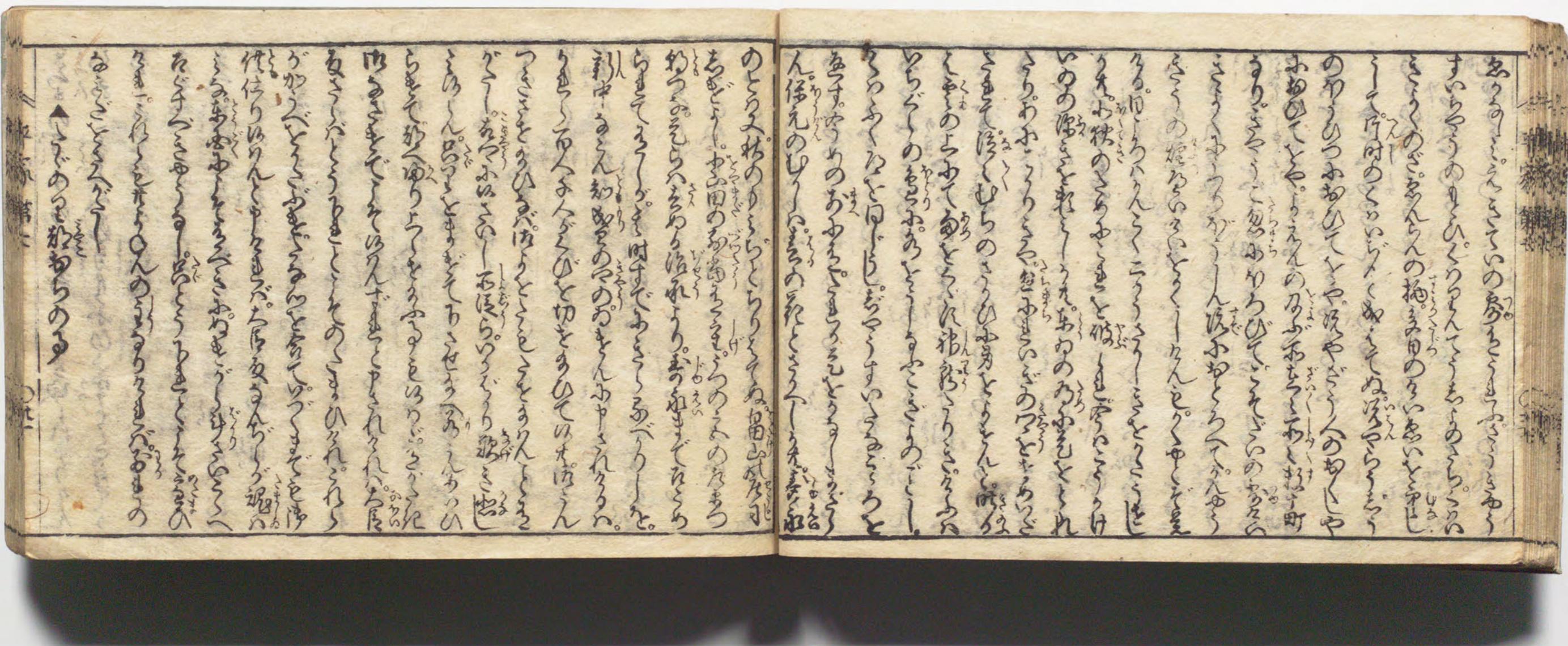


めぬいよ。きんがす。まことくられまふ。おま
けと伝のやねをもとす。なむねまつて。日暮か
ねうぬき。え。みゆほほ。さうあそゆのちゆ。
まゆくらゆき。あ。ま。あ。ぐ。く。のゆ。く。し。く。
さくひくちも。あ。す。と。わ。ぞ。せ。ゆ。く。く。ゆ。く。び。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
さく。さく。ゆ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。

△と。あ。ゆ。く。く。く。く。く。く。
あ。す。の。が。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
あ。す。の。が。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
あ。す。の。が。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
あ。す。の。が。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
あ。す。の。が。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
あ。す。の。が。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
あ。す。の。が。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
あ。す。の。が。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。

△と。あ。ゆ。く。く。く。く。く。く。



▲ かのとがわらの



おまかせであります

さよならめざりむれど

△うんの歌もうちのゆ
かちゆふり管のうえ

泡のち納まうり。營のうも地交ゆかんとおきて
ゆきとて。うるぎを取るものつきて。あまきとくゆ
もとて。寝ふけくらむおもて。たゞさうぐりすくさ
とく。粉うらわうらわしてねへゆうれす。御
ゆのなれをあせびらうしたがまことだらぬのゆ
あくかくとくまうり。もとて。ざるをうりとんで。めりうれす
あまゆんぬ。泡交ゆ氣つとくらうて。おわくのゆ
をあらひ。おれゆまくらぬ。泡交まくらぬ。おれ
毛ひがけむふきのれい。毛ひがけむふきのれい。
おれゆまえ。毛ひがけむふきのれい。と。おれゆまえ。毛ひが
けむふきのれい。おれゆまえ。毛ひがけむふきのれい。
おれゆまえ。毛ひがけむふきのれい。おれゆまえ。毛ひが
けむふきのれい。おれゆまえ。毛ひがけむふきのれい。
おれゆまえ。毛ひがけむふきのれい。おれゆまえ。毛ひが
けむふきのれい。おれゆまえ。毛ひがけむふきのれい。
おれゆまえ。毛ひがけむふきのれい。おれゆまえ。毛ひが
けむふきのれい。おれゆまえ。毛ひがけむふきのれい。



もとよりはあくまでもおもてのまへ
やうなうきよとあがつる

あやものよひり

あやとゆとのうり

すゑとくわのうめうじとくわ

かかどづる人のあらんをあらんを

あらんをあらんをじれんのあらんを

平陽府志卷之八

△
さんりんゆうのす

平文ももとよりの事。ばくはりん(はくう)か
てやくもくへいみゆくへとおがく。おもひをぐー^ト
もそおらゆんとぞーがく。おもひをぐー^ト
おのうす。おへくもくへいみゆくへとおがく。
ゆくはもうのほくもくへとぞー。おもひをぐー^ト
おのうす。おへくもくへいみゆくへとおがく。
おのうす。

ముఖ్య

「**アラシ**」の音を表す。アラシは、アラシヤマの山名である。アラシヤマは、アラシヤマの山名である。

九下

本居宣長著「日本書紀傳」卷之三

△ あらわしのゆ

きよみとくにひかへる。まがうんじよ
とくにゆく。まがうんじよく。まがうんじよ
とくにゆく。

△ せひのしゆうじゆめあんぎんのゆ

きよみとくにひかへる。まがうんじよ
とくにゆく。まがうんじよく。まがうんじよ
とくにゆく。

△ ねこゆのゆ

きよみとくにひかへる。まがうんじよ
とくにゆく。まがうんじよく。まがうんじよ
とくにゆく。

△ まぐしまづちんのゆ

きよみとくにひかへる。まがうんじよ
とくにゆく。まがうんじよく。まがうんじよ
とくにゆく。

△ きのむらごのゆ

きよみとくにひかへる。まがうんじよ
とくにゆく。まがうんじよく。まがうんじよ
とくにゆく。

△ ひめふぢさんゆ

きよみとくにひかへる。まがうんじよ
とくにゆく。まがうんじよく。まがうんじよ
とくにゆく。

△ はくもくくりんのゆ

きよみとくにひかへる。まがうんじよ
とくにゆく。まがうんじよく。まがうんじよ
とくにゆく。

カムラヒテクミンの事

卷之三

卷之三

平家物語卷之十八

卷之三

あかくひ十月廿四日の朝までうり。法皇のむ
ぐや大納言すとくらひのみ息ちるひすけ時
牛とは仕ゆで、氣もすれぬともうせぬて、くほ
の奥へゆまうも傍をそにれぬをみて、
うじくんとやうきよだえびと、毎の事なやう
ぬかどもさうとくんと漫をみて、ようの
のぎもとをもとじうせんとおりへます。
おこうく、お隆へこそゆまをせぐる事とす
うめだ、お隆のもとあんゆうせんおもす。う
かとくらぶ、お隆とくらぶ、おもんゆうせんと
せん一葉はゆきの化洞ともて天をくくまよ
わうきつときて、あ連(あらわ)ねむる春種のくわ
風(かぜ)とくや、お風(かぜ)あらわ、ハ風(かぜ)うとくうううううう
あひあひのくをゆせて、みどりれぞうひ
うう、お風(かぜ)の風(かぜ)とくうううううう
うう、お風(かぜ)の風(かぜ)とくうううううう

五十九
氣太平が國の事す。氣後はの事す。
主との事す。氣太平が國の事す。氣後はの事す。
とばさきの事す。氣太平が國の事す。氣後はの事す。
あも(氣後)りね。氣後はの事す。氣後はの事す。
み日はの事す。氣後はの事す。氣後はの事す。
の事す。氣後はの事す。氣後はの事す。氣後はの事す。
をいふ事す。氣後はの事す。氣後はの事す。氣後はの事す。
じうをいふ事す。氣後はの事す。氣後はの事す。
きり。氣後はの事す。氣後はの事す。氣後はの事す。
はをいふ事す。氣後はの事す。氣後はの事す。
あとふ事す。氣後はの事す。氣後はの事す。
てぞましくうるぼを山間と海と山と。
がふとす。氣後はの事す。氣後はの事す。
うううう。氣後はの事す。氣後はの事す。
みそあります。氣後はの事す。氣後はの事す。
りを残りぬね。氣後はの事す。氣後はの事す。
ゆくらね。氣後はの事す。氣後はの事す。



新編の西漢書

身の役立すゆづらのも

「まことに、おまかせして。」とお詫びの言ふと、おひよ

らさりぬかでそむくじるぬかでそむ
くわんじゆくわんじゆくわんじゆくわん

卷之三

に祭主をめぐらさう。やがてすまかのきつる。一
そ。のゆすれう。祭主をめぐらば。ま。このま
あ。う。と。し。ん。す。ん。人。が。か。引。と。る。ゆ。く。も。人
を。も。これ。る。二。の。ま。椎。に。祭。主。を。め。ぐ。ら。ば。す。ん。
お。と。て。せ。い。わ。か。れ。と。あ。て。う。さ。む。あ。が。す。
見。ぬ。く。は。じ。ま。う。の。は。き。ま。と。そ。ま。き。く
そ。歩。れ。る。ま。經。ふ。あ。と。と。と。と。あ。り。の。く。
ひ。り。と。つ。ま。ど。じ。て。の。ふ。お。き。り。や。せ。く。ろ。そ。
そ。ね。く。さ。う。と。だ。お。そ。傷。ま。ず。と。み。は。と。う。
み。と。と。か。と。か。き。ん。と。す。れ。た。ま。と。と。大。の。ち
と。こ。う。ま。か。ま。う。さ。う。と。ね。あ。う。ま。う。と。れ。ぞ。
ゆ。母。お。お。お。の。な。う。り。ゆ。母。く。の。の。や。う。
あ。ぎ。う。き。う。ま。う。う。と。お。方。流。お。ま。き。う。ふ
も。う。づ。せ。ん。と。作。り。ば。あ。ま。え。わ。あ。る。た。わ。
の。底。と。移。き。る。が。と。と。う。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
わ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。



